

トマトの大敵 黄化葉巻病が拡大 タバコナジラミの新系統バイオタイプQにご用心！！

【背景・目的・成果】

- ・**トマト黄化葉巻病**は、西日本のトマト産地を中心に被害が拡大している病害です。兵庫県では2006年に発生が確認されています。
- ・この病気は、**タバコナジラミ**という昆虫により媒介され、被害が拡大します。近年、この**タバコナジラミ**に新系統(**バイオタイプQ**:本県では2006年に確認済)が出現し、薬剤の効きも悪いため、本病の発生防止を難しいものになっています。
- ・この新系統のコナジラミは、外見から識別することができず、PCR法(遺伝子診断)による確認が必要です。県では、これらの発生状況を調べて、効果的な防除対策を推進し、本病の蔓延防止に努めています。

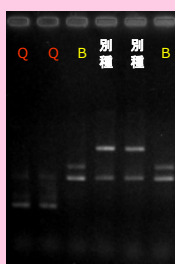
タバコナジラミのプロフィール



- ・体長約0.8mm
- ・成虫、幼虫とも植物の汁液を吸います(幼虫、蛹は動けません)
- ・野菜類、花き類、雑草など多くの植物で生活できます
- ※「シラミ」とありますが、人や動物に寄生するシラミとは違います(アブラムシと同じ仲間です)

バイオタイプとは？

形態は同じでも、遺伝的、生理・生態的性質が異なる系統のこと。



遺伝子診断による判別

タバコナジラミのバイオタイプとその特徴

- 在来系統(昔から日本に住んでいます)
トマト黄化萎縮病を媒介 越冬可能
- バイオタイプB(1989年に日本へ侵入)
トマト黄化葉巻病を媒介 越冬不可
- ◎バイオタイプQ(2004年に日本へ侵入)
トマト黄化葉巻病を媒介 越冬不可
特定の農薬に対する抵抗性が高い

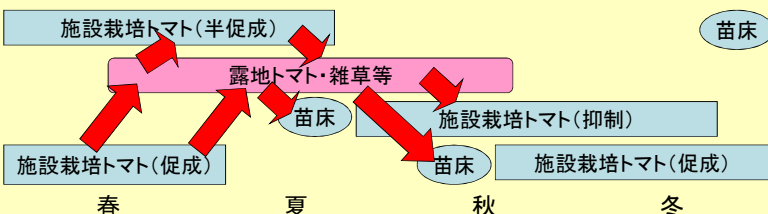


トマト黄化葉巻病の発生確認地域
(2009年8月現在)



タバコナジラミバイオタイプQの発生確認地域
(2009年8月現在)

トマトの作型とタバコナジラミの季節移動



バイオタイプB及びQは、冬場の温度が暖かい施設栽培ほ場内では越冬できます。露地と施設を行き来することで、感染が継続します。

この感染のルートを断ち切ることが対策の最重要ポイントです。

【技術の活用】

今後とも、**バイオタイプQ**の発生地域やその周辺地域へ注意喚起をし、農薬のみに頼るのではなく、防虫ネットの設置等、効果のある防除技術を組み合わせ、**トマト黄化葉巻病**の蔓延を防止します。